

対談② 地域と学生をつなぐ

近年、学生地域定着事業「ジモ×ガク」に参加し地域と関わる大学生も増えてきている。学生はどのような影響を受けているのか。関係者が語る。

——「ジモ×ガク」が始まって4年。学生にどんな変化が見られましたか

深瀬 いろいろなイベントを通じて学生さんと関わっていますが、間違いない地元に対する気持ちというのは上がっています。

ジモ×ガクに参加するだけでも地元に対する気持ちを感じられますしね。元

藤本 私が情報大学に赴任した6年前、前、山田君も所属していたボランティア部が大麻薬商店街のお手伝いをするなど、地域との関わりが多少受けられたのですが、他の3大学は立地もあって、アルバイトをする場所も、遊ぶ場所も、やっぱり札幌に向いていたような気がします。

4大学で学生1万人とはいうものの、大半は札幌や周辺の市町村から通っています。

その中で、江別を全然知らない、4年間通つていても飲み会を野幌で2、3回やったことあるという程度で終

わってしまうのがせいぜいです。

そんな学生たちが、ジモ×ガクがスタートしたことで地域の事に関われるチャンスがすごく増えてきて、「関わってみたら楽しい」とか「熱い人がいる、すごく面白い」と感じているようですね。

関わり方の密度には個人差はあるでしょうけれども、江別や周辺の市町村を知らないといった学生が、たとえば長沼町のやむ市活動や、赤平や青別のインターンシップに参加したり、創光施設の検証事業なんかに関わらせてもらつて、その地域の取り組みや資源に関する認識を深めています。

今まで大学生が関わる機会や、知るチャンスが全くなかつたので、そういうきっかけがジモ×ガクという地方創生のプログラムを通して準備できたということが大きいと思います。



上／由仁町むかで競争に参加したジモ×ガクチーム
左下／栗山児童センターで、夏休み中の小学生と交流
右下／長沼町タケマ市に参加した学生。笑顔で飲食物を販売

ジモ×ガク



比べると、今は学生さんが、積極的に参加してくれているなと感じます。

当たり前にボランティアに参加できる環境が整つてきているということではないでしょうか。

まだ学生さんも、漫然と参加しているだけではなく、「自分の成長や学びにしたい」という考えの方が増えてきているのかなと思います。

ジモ×ガクの参加者は年々増えているので、今後地元に就職する人



も増えていくのでしょうか。
今後も若い人がこれまで通りに入つてきて欲しくはないで、地域に目を向けてくれる学生さんが増え

はこんな取り組み！

学生が地域活動に参加



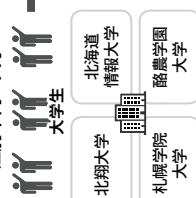
8市町



協議会がマッチング



江別市内4大学



てきているなど感じます。

荒木 自分は高校の先生の勧めで大学に入りましたが、4年生まで何をしようか決めていませんでした。そういうときには山田さんがキャリアアサポート授業で「江別で建設の仕事をします」と話されたのを聞いて、そういう会社が地元にあるんだと初めて知つて、そこから就職しようと決めました。

——江別に就職する良さや魅力は

山田 家賃などの物価も安いですし、スーパーも多くて生活には困らないなと思います。娯楽という面では札幌にはかないませんけど。

あと、個人的には、地域に対して熱量をもつている人が多いというのが魅力でした。大学1年目にジモ×ガク関係者の方の働きを見ていて、自分も手伝いたいなというふうに思いました。「この人のために頑張りたい」と思える人が、江別にはたくさんいたな、魅力に感じた部分でした。

一方で気になるところ、少し違うのかも知れないですけど、寂しがります。お年寄りと若者のコミュニティが絡み合つていけたら良いのかもね。

藤本 今後もジモ×ガクを継続していくシティアナなども、企画してみたら良いかもしれませんね。

地域と学生をつなぐ ジモ×ガク

「ジモ×ガク」の今後について

藤本 ジモ×ガクは色々なプログラムを通じて、地域の環境や人の良さなどを『江別の魅力』を学生がインプットする機会なのかなと思っています。

卒業後、一度都会で就職してみて自力をつけたけれど、そこで暮らす中で違う環境で生活してみたいとか、人間関係、ストレス、親の事などで戻らなくっちゃいけないというときに、江別の魅力を思い出して、帰る場所として江別が選択肢として浮かんではいるんです。

4年大学の学生に中長期で江別のことなどを記憶の片隅に残すというか、インプットして、江別の良さを心に残してもらいたい、必要になったときに江別



を選んでもらう。言わば仕込みの時期なのかななど考えています。

今後も、大学教員としてそんな気持ちで協力していくことを思っています。

竹田 私も数多くの学生さんに、ますます参加して欲しいということがあります。藤本先生も仰っていますが、今後よりターンの学生も増えてくると思うんですね。

こういった活動を続けていくことで、江別に帰りたいと思ってくれる学生が、きつと少しずつ増えてくるんじゃないのかなと思います。来年度からは、内容をさらにアップグレードして、より地域に住むイメージができるような形にできたら良いなと考えています。

山田 とりあえず自分は江別で頑張つて、東京にいる大学の同期には「山田がいるし江別に戻つて来ようかな」と思つてもらえるようになりたいです。ジモ×ガクの後輩にも自分の姿を見て、江別で働くといいなと思ってもらえるように頑張つていきたいです。

荒木 僕も時間があればランティアア



などにも参加してみたいと思います。

「ジモ×ガクを通じ学んでほしいこと

深瀬 大学4年間という期間の中で、社会人になる準備ができたら良いのかなと思います。

準備ってなんなのかどうじ、社会人と学生とでは考え方方が全く違うんだという心構えです。

学生は、就職するために大学に行っていると思いますが、技術的な事よりも、社会人としての心構えを準備していく必要があります。うんですね。

そういう意味でも、ジモ×ガクは、とても良い場所だと思います。

さまざまな年代の人や職業の人と話すというのは多様な価値観を与えてくれますからね。色々な人と会って色々な考え方を受け入れてみてから社会人になると良いのではないかでしょうか。

またたくさん失敗して、打たれてから社会人になってほしいというのもあります。

失敗しないで生きてくると、社会人になつて失敗したときに立ち上がるできれば大学生のうちに、どんな改めた事をやって、失敗してみてほしいですね。

自分で企画して、作つて、失敗して、へこんで、そして強くなるという貴重な体験をして、社会に出る前に成長してきてほしいですね。



みんなでつくる 未来のまち江別

令和元年1月1日、江別市の人口は15年ぶりに増加しました。しかし、全国的な人口減少傾向はいまだ続いている。

人口減少社会では、経済や都市などが衰退していくと考えられており、中長期的に見れば私たちの住む江別市も例外ではないかもしれません。

ですが、それは確実に訪れる未来と言えるのでしょうか。物理学の世界では、初期条件のわずかな差が、結果に大きな違いを生むことを「蝶々効果」と言います。

いま、江別には、さまざまなかつかけで地域へ関わろうとしてくれる若者

が増えてきました。

こうしたわずかな社会の変化が、蝶々効果を生み、人口減少社会で予想される未来を大きく変える、そんな力になるかもしれません。

私たちも明るい未来を待ち望むばかりではなく、彼らとともにを未来のまちを作りませんか。彼らの生き生きとした姿は、きっと良い刺激を与えてくれるはずです。

未来は、今の私たちがどう生きるのかに委ねられているのですから。



特集への感想をお寄せください

▼郵送・ファックスで送る
〒067-8674 高砂町6 広報広聴課
TEL 381-1149

▼市ホームページから送る
右のQRコードを読み込み、アンケートフォームから感想をご記入ください。

